

21-68

特28

819

164

1022

京 東

市岡正一編纂

類聚法令大全增補訂正彙集

上

博行館本部

博 行 館

08
5
088

類聚法令大全增補訂正彙集

凡例

一本書ハ彙キニ發行シタル（市町村）類聚法令大全ニ繼續スル者ニシテ既ニ該書ニ記載スル處
 ノ法令ニシテ發行後本年七月マテノ間ニ於ケル増補改正追加等ニ依リ本書ヲ訂正シ其他
 該吏員ノ職務上ニ係ル新令ヲ加ヘ尙ホ舊令ニシテ前版ニ漏レタルモノヲ補ヒ爾後廢滅ニ
 係ルモノヲ除キタリ

一本書ハ分テ二級トシ類聚法令大全上卷ニ掲載スル法令ニ關スル分ハ之ヲ上卷ニ調綴シ下
 卷ニ係ルモノハ之ヲ下卷ニ調綴ス

一本書ノ丁數ハ各紙ノ羅馬數字ヲ以テ付シ側方通常ノ丁數ハ前版類聚法令大全ノ丁
 數ヲ用ユ其増丁數ニ係ル分ハ更ニ其下ニ六號活字ヲ以テ丁數ヲ付ス例ハ四十八ノ一ト
 付スルカ如キ即チ其類ナリ

一本書ノ丁付ト先版大全ノ丁付ト相符合スル分ハ即チ前版中其丁付ノ部分ノ廢紙ニ屬シタ
 ルモノニシテ丁付ト増加ニ係ルモノハ即チ其紙葉ノ増加シタルモノナリ故ニ前版紙中ヨ
 リ其重複スル分ヲ除去シ又増加スル分ヲ加フレハ前版ハ純然タル現行書トナルヘシ

一本書ハ解綴シテ前版二卷中ニ挿入スルノ便利ヲ以テ編綴セシニ依リ前版ト相合スル紙葉
 ニシテ前紙葉ニ編章款節等ノ表目アル部分ト更ニ表目ヲ増設シタル部分ノ外ハ之ヲ設ケ
 ス

凡例

一本書卷首ニ綴リタル次目ハ本卷中ニ記載セシ處ノ法令ノ目次ナルヲ以テ前版ノ目次ト比照シテ搜查ニ便スヘシ又卷末ニ綴リタル目次ハ前版ノ中改正目次タレハ本紙ヲ以テ前版ニ加フトキハ又此目次ヲ以テ前版ノ目次ト交替スヘシ

一本紙ヲ以テ前版ヲ訂正スルニハ例ヘハ本卷上綴ノ四十七、四十八丁ヲ以テ大全上卷ノ四十八、四十七丁ト交替シ(四十八丁ノ一)ヨリ(四十八丁ノ四)マテハ大全上卷ノ四十九丁ノ前ニ合綴スルカ如シ

一各卷首ノ目次中並ンテ丁數ヲ付スル者ハ右ハ本文齣頭ニ付スル丁數ニシテ左ハ本文左側ニ付スル丁數ナリ

明治二十七年八月

編者誌

(注意)

一凡例中不明ニ依リ御照會ノ向ハ往復郵便はかき又ハ返信用切手ヲ添付セラルヘシ否サレハ回答ヲ爲サス

一大全上卷中ニ本紙ヲ加ヘ廢紙ヲ除去シテ改綴ヲ爲サント欲スル諸君ハ本書(前版并本綴分)ヲ送付セラレ更ニ製本料金二十錢ト返送郵税二十四錢トヲ前納セラルヘシ

郡市町村吏員必要類聚法令大全増補訂正彙集

上卷目次

第二類 郡區職員官制官等俸給及郡區職員市町村吏員旅費其他任用等ノ件

第二章 郡區長郡書記任用試験及其他官吏任用ニ付取扱ノ件

第一款 文官任用令及文官試験規則

第三〇乙 文官高等試験細則

四十八

第三〇丙 判任官高等試験ヲ受クルヲ得ル件

三 四十八ノ四

附錄 官吏服務及懲戒ニ關スル件

第一款 官吏服務紀律ノ件

第五七乙 官吏服務紀律

五 百四十二ノ一

第二款 官吏懲戒ノ件

第五七丙 官吏懲戒例

六 百四十二ノ三

増補訂正彙集上卷目次

●第五七丁 官吏懲戒例附達ノ件

七
百四十二ノ五

第四類 代議制及地方制

第六章 地方税ニ關スル件

第五款 高等中學校費衛生費等ノ件

八
三百十五

●第一三三 傳染病身元赤貧者費用地方税支辨ノ次附言ヲ加フル件

第七章 備荒儲蓄

●第一三二 備荒儲蓄金取扱順序改正ノ件

九
三百三十三

第九章 市町村制

第一款 市制町村制及理由書並三府ノ三市ニ係ル特例

●第一三四 市制町村制ノ末附言中増加ノ件

十一
四十一

第五類 土木及道路橋梁渡津

第二章 道路橋梁渡津等ニ關シ市町村長心得方ノ件

市制第二款 橋梁渡船賃錢揭示及渡船差立方並警部、巡查、憲兵、軍隊、

郵便電信脚夫、集配人、消防組等賃錢請求差止メノ件

●第一六三乙 人民私設ノ橋梁渡津道路等消防組員ノ賃錢請求差止ノ件

第六類 警察及監獄

第一章 警察諸規則中郡市町村長及議會ノ議員ニ關スル件

第六款 消防組諸則

●第一七五乙 消防組規則

十三
五百五十六ノ一

●第一七五丙 消防組規則施行概則

十四
五十五十六ノ四

第七款 帶刀ニ係ル件

●第一七五丁 帶刀禁止處分ノ件

十五
五百五十六ノ六

●第一七五戊 官國幣社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許ノ件

全

●第一七五己 府縣社以下神輿供奉中古例ニ依リ帶刀差許ノ件

十六
五百五十七

第七類 戶籍、人事、相續、種族

第四章 種族

第一款 華族

●第二五六 華族令第十一條以下追加ノ件

十七
七百八

第八類 衛生

第一章 衛生會及傳染病豫防等

第二款 傳染病豫防及種痘ニ關シ郡市町村吏員取扱ノ件

●第二六五 傳染病豫防規則ノ未附言ニ増加ノ件

十九
七百十八

附錄 傳染病豫防費府縣稅市町村費負擔方ノ件

●第二七四乙 傳染病豫防上必要諸費府縣稅市町村費負擔ノ件

二十
七百四十四

第九類 社寺

第一章 神社氏子及社寺總代府縣社以下神官等ニ關シ郡市町村長等

心得方ノ件

第二款 府縣社以下神職ニ係ル件

●第二七七 府縣社以下神社ノ神職ニ關スル件

二十一
七百四十八

●第二七八 府縣社以下神官選舉ノ節皇典講究所ノ卒業證書又ハ試驗濟

證書ヲ添付セシムル件

二十二
七百四十八

●第二七九 皇典講究所ノ試験ニ拘ハラズ府縣社以下神職タルヲ得ヘキ

件

全全

第三款 府縣社以下神職奉務及懲戒ノ件

●第二八〇 府縣鄉村社神職奉務規則

全
七百四十八ノ二

●第二八〇乙 府縣社以下神職懲戒處分ノ件

二十三
七百四十八ノ三

第四款 神官神職ニ於テ議員選舉ニ關スヘカラサル件

●第二八〇丙 衆議院議員ノ選舉ニ就キ神官神職ニ注意方ノ件

全
七百四十八ノ四

第二章 僧侶教師ニ關スル件

第一款 寺院住職任免及教師進退其他盲僧ニ係ル件

●第二八一乙 寺院住職ノ任免及教師ノ等級進退ヲ管長ニ委任スル件

全全

●第二八一丙 管長身分取扱ノ件

二十四
七百四十八ノ五

●第二八一丁 従前ノ教導職ヲリシ者身分取扱方ノ件

全

第二款 盲僧ニ係ル件

●第二八一戊 盲僧取締方ノ件

全 七百四十八ノ六

●第二八一己 盲人ニ非スシテ盲僧業ヲ營ムヲ禁スル件

全

第三款 教師僧侶ニ於テ議員選舉ニ關涉差止ノ件

●第二八一庚 衆議院議員選舉ニ就キ教師僧侶ニ注意方ノ件

全 二百四十八ノ六

目次終

第十一條 豫備試験ハ論文試験並ニ論文ニ關聯スル口述試験及迅速作文試験ノ二次トス口述試験及迅速作文試験ハ論文試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第十二條 帝國大學法科大學、舊東京大學法學部、文學部及舊司法省法學校正則部ノ卒業證書ヲ有スル者ハ豫備試験ヲ免ス

第十三條 本試験ハ受験人學理上ノ原則及現行法令ニ通曉シ並ニ其ノ修得シタル學術ヲ實務ニ應用スルノ能力ヲルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十四條 本試験ハ左ノ科目ヲ用井テ之ヲ行フ

- 一 憲法
- 二 刑法
- 三 民法
- 四 行政法
- 五 經濟學
- 六 國際法

以上ノ科目ハ試験ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

- 一 財政學
- 二 商法

三 刑事訴訟法
四 民事訴訟法

以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試験ス
第十五條 本試験ハ分チテ筆記試験及口述試験トス筆記試験ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 豫備試験及本試験ノ合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル
第十七條 文官高等試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 文官普通試験

第十八條 文官普通試験ハ各官廳ノ須要ニ應シ其ノ應ノ文官普通試験委員之ヲ行フ

第十九條 文官普通試験ノ科目ハ尋常中學校ノ科程ヲ標準トシ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官普通試験委員之ヲ定メ文官高等試験委員ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 文官普通試験ニ關スル細則ハ文官普通試験委員之ヲ定メ文官高等試験委員ニ報告スヘシ

附則

第二十一條 本令ハ明治二十七年二月一日ヨリ施行ス

○第二十二條 文官高等試験細則明治二十七年五月七日閣令第二號
文官高等試験細則左之通定ム

文官高等試験細則

第一條 文官高等試験ヲ受ケント欲スル者ハ書式ニ照シ試験願書ニ履歷書及試験論文ヲ添⑤ヘ公告シタル期日マテニ文官高等試験委員長ニ差出スヘシ但明治二十六年勅令第九十七號文官試験規則第十二條ニ該當スル者ハ試験論文ヲ要セス

前項ノ期日ハ文題ト共ニ一箇月前ニ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 試験論文ハ公告シタル文題ニ就キ其ノ一ヲ擇ミ漢字交リ文ヲ用キ自ラ楷書ヲ以テ之ヲ書スヘシ

第三條 試験手数料ハ登記印紙ヲ用キ試験願書ニ貼付スヘシ但試験ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第四條 試験願書履歷書及論文ハ出願ノ取消ヲ求ムルモ之ヲ還付セス

第五條 論文試験ニ合格シタル者ニハ文官高等試験委員長ヨリ口述試験及迅速作文試験ヲ行フヘキコト並ニ其ノ期日及場所ヲ二十日前ニ官報ヲ以テ公告シ仍之ヲ本人ニ通知スヘシ

第六條 本試験ノ筆記試験ハ二日前ニ其ノ科目及期日ヲ定メテ之ヲ行ヒ其ノ口述試験ハ筆記試験全ク終リタル後更ニ期日ヲ定メテ之ヲ行フ

前項筆記試験ノ期日ハ豫備試験ニ合格シタル者及文官試験規則第十二條ニ該當スル試験出願者ニ通知シ口述試験ノ期日ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ通知シ仍官報ヲ以テ公告ス

ヘシ

第七條 迅速作文及筆記試験ハ受験人總員ヲ一室又ハ數室ニ入レ問題ヲ付シ文官高等試験委員監視シテ之ヲ行フ但受験人一人ナルトキハ文官高等試験委員二人以上監視ス
答案ハ楷書又ハ行書ヲ以テ明瞭ニ記スヘシ

第八條 口述試験ハ豫備試験ト本試験トニ拘ラス文官高等試験委員三人以上列席シテ受験人一人毎ニ試問シテ即時答辯ヲ爲サシム

第九條 受験人ハ試験室内ニ於テ互ニ語話シ又ハ喧騒スルコトヲ得ス
第十條 受験人ハ書類其ノ他受験ノ材料トナルヘキモノヲ携帯シテ試験室内ニ入ルコトヲ得ス

第十一條 受験人ハ問題ニ付質問シ又ハ試験場ニ於テ書籍ノ借覽ヲ求ムルコトヲ得ス
第十二條 受験人ハ文官高等試験委員長ノ揭示其ノ他試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十三條 受験人試験期日ニ出席セス又ハ試験半途ニ退室シタルトキハ其ノ期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
第十四條 文官高等試験委員長ハ文官高等試験委員會議表決ノ數ニ入ラス但可否同數ナルトキハ文官高等試験委員長之ヲ決ス

第十五條 文官高等試験委員試験ノ成績ヲ査定シタルトキハ之ヲ文官高等試験委員長ニ報告スヘシ其ノ報告期限ハ文官高等試験委員長豫メ之ヲ定ム

第十六條 文官高等試験合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ公告ス
第十七條 文官高等試験ニ關シ必要ナル手續ハ文官高等試験委員長之ヲ定ム
文官高等試験出願書式(用紙美濃紙)

印紙

私儀文官高等試験相受度別紙履歷書及論文(卒業證書寫)相添此段奉願候也

年月日

文官高等試験委員長氏名宛

(試験委員ヨリ發スル通知書ヲ送付スヘキ宿所ヲ便宜ノ爲メ豫メ其ノ現住所外ニ定メ置カントスル者ハ左ノ書式ニ依リ追記スヘシ)

追テ貴委員ヨリ發スル通知書ハ左ノ所ニ御發送被成下度候

何府縣何郡市何町村何番地(何某方)
履歷書式(用紙美濃紙)

族籍

氏

名

生年月

現住所

氏

名印

族籍

氏

名

生年月

本籍

一何府縣何國何郡市何町村何番地戸主又ハ何某兄弟伯叔父等

現住所

一何府縣何國何郡市何町村何番地(何某方)
試験出願中現住地ヲ轉シタ
ルトキハ其ノ時々届出ヘシ

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ所修ノ科目大畧何
々

一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス

職業

一何年何月何官廳ニ於テ何々拜命何々歷任等

○第二十二丙

判任官高等試験ヲ受クルヲ得ルノ件明治二十年十二月二十六日
勅令第六十四號

朕判任官高等試験ヲ受クルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則施行ノ後五箇年間又ハ五箇年以上官務ニ従
事シ判任官五等以上ニ叙セラレタル者ハ同則第十七條第五項ニ準シ高等試験ヲ受クルコト
ヲ得其當選シタル者ノ本官ニ任スルハ同則第二十九條ニ據ル文官試験試補見習規
則ハ既ニ廢止ニ屬ス

第二款●郡區長試験及特別任用法

○第二十二丁、郡區長試験科目ノ件明治二十年七月二十五日
閣令第二十號

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス 但寡婦アレハ孤兒ニ給セス
- 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未満ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第六條 療治料ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條 祭祀料

- 一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
- 二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレタル者
- 二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

- 一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者
- 二 公權ヲ停止セラレタル者
- 三 失踪シタ

ル者 第四章 許可ヲ得ヌシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者 年金恩給金等郡役所ニ於テ渡方等ノ件

○第五十七 恩給諸祿仕拂順序中年金及恩給金交付方ノ件 明治二十三年二月二十一日 大藏省訓令第十二號 北海道廳府廳
年金恩給ノ受領者其交付期節ニ臨ミ管下ヘ移轉シタルトキハ移轉先ノ地方廳ニ通報シ該廳ヨリ年金證書クハ恩給證書及生存證檢閱濟ノ報告ヲ得テ後チ送金ノ手續ヲ以テ年金若クハ恩給金ヲ交付スヘシ(第十條)

●伺指令

●郡役所ニ於テ年金恩給金等渡方手續ノ件 明治二十三年三月二十日 和歌山縣照會
賞勳年金及軍人恩給ノ内受給者各郡村ニ居住ノ向ヘ渡シ方ハ是迄數人分ヲ取束手其郡役所ヘ送金シ郡役所ニ於テ年金票且登錄寫帖等ニ對照ノ上本人ヘ交付致シ來リ候處新會計法實施ニ付客月御省訓令第十二號ヲ以テ恩給諸祿仕拂取扱順序被定候中ニ前顯ニ關スル明文無之右ハ總テ當廳ニ於テ本人ヘ交付可致儀ニ候乎

大藏省國債局回答 明治二十三年三月二十八日

本年大藏省訓令第十二號第十條ニ準シ郡役所ニ於テ年金證書若クハ恩給證書並生存證書等檢閱濟ノ通報ヲ得テ送金ノ手續御取計相成可然

附錄 官吏服務及懲戒ニ關スル件 第一款 官吏服務紀律

○第五十七之七 官吏服務紀律 明治二十年七月九日(七月三十日公布) 勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貧汚ノ所爲アルヘカラス
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
- 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得
- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書又關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルハコトヲ得ス
- 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得

ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス
官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受ルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フ

コトヲ得ス

第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

第二款 官吏懲戒ノ件

第五十七條 官吏懲戒例 明治九年四月十四日 太政官達第三十四號院會使廳府縣

今般官吏懲戒例左ノ通相定候條此旨相達候事

官吏懲戒例

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒ノ權ヲ有スヘシ

第二條 懲戒ノ法三種トス第一誹責第二罰俸第三免職

第三條 誹責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ誹責書ヲ付ス

第四條 罰俸ハ一月分十分ノ一ヨリ少カラス三月分ヨリ多カラサル俸ヲ奪フ

俸ヲ追スルノ法其一月俸給半額以下ハ一月俸中ニテ追了シ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ領置シ數滿テ大藏省ニ送付ス十三年一月二十一日太政官達第四號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第五條 懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其奏任ハ具狀奏請シテ之ヲ免シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニアラスシテ免職スル者ハ長官旨ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ差出サシメ然後ニ免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ(太政大臣)之ヲ懲戒ス(府縣官判事ヲ兼ツ者ノ其所屬判任官ニ於ケルハ他ノ奏任以上府縣官ノ協議ヲ得タル後之ヲ懲戒ス)

第九條 府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ其譴責ヲ專行スルコトヲ得ルヲ除クノ外其罰俸免職ヲ行スハ便宜處分シテ速ニ内務卿ヘ届出ヘシ

(府縣官判事ヲ兼ル者其所屬判任官ノ罰俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出トシ)

第十條 其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法官ニ移シ本屬長官等ニ於テ處分スルコトヲ得ス

(附言) 判事檢事ヲ懲戒ニ付テハ裁判構成法實施以後ハ該法ノ明條ニ依リ懲戒裁判ニ依リ處分スヘキモノトス

第五十七ノ丁

官吏懲戒例附達ノ件明治九年六月八日太政官達番外院省使廳附錄

一 准官吏並ニ等外吏ハ本例ニ照シテ處分シ備其他種々ノ名義ヲ以テ公事ニ關スル者ハ本屬長官ノ見込ヲ以テ適宜處分スヘシ

一 官國弊社神官並ニ(教導職)ノ過失發見スル時ハ所在地方官ヨリ其狀ヲ具シ教部省ヘ届出ヘシ十三年太政官達第二十三號ヲ以テ本項ヲ廢止ス

一 巡查及學校其他諸工場等ノ如キ別ニ懲罰規則有之分ハ本例ノ限ニアラス

一 民費ヲ以テ給俸ニ充ル者ノ罰俸ハ各其民費ニ割戻スヘシ

(附言) 十七年八月太政官布達第十九號(符號第二百八十一ノ乙)ヲ以テ神佛敎道職ヲ廢シ敎師僧侶ノ進退ヲ神佛諸宗管長ニ委任ス●二十七年三月内務省令第三號(符號第二百八十ノ乙)ヲ以テ府縣鄉村社神職懲戒例ヲ定ム

四十六號(符號第五百十七)ヲ以テ高等中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ頒布ス

○第二百二十一 府縣立醫學校費用ノ地方稅支辨差止ノ件明治二十年九月三十日(十月一日公布)勅令第四十八號

朕府縣立醫學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
府縣立醫學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○第二百二十二 傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅支辨ノ件明治二十六年二月十四日大政官達第八號醫務府縣

明治十四年^四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事
傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發
病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

(附言) 二十七年勅令第十四號(符號第二百七十四ノ乙)ヲ以テ傳染病豫防費府縣稅市町
村費負擔方ヲ定ム

●伺指令

●博覽會共進會品評會勸業委員勸業各會等ノ如キ費用ノ件明治十七年十二月二日農商務省例

地方稅規則第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ勸業費目ノ儀ハ土木費教育費等トハ稍其性質ヲ
異ニスルモノニシテ醫會ハ博覽會共進會物產品評會勸業委員勸業各會農商工事ノ改良通信
統計調査等ノ如キハ其事業ノ府縣立ニ屬スルモノト人民ノ共立ニ係ルモノトヲ問ハス均ク
事業獎勵上必要ノ費用ニシテ自カテ一府縣全體ニ關スルヲ以テ右等費用ハ府縣會ノ決議ヲ

經ヲ勸業費目中心ヨリ支出致シ法律上妨ケ無之儀ト相心得可然哉此段相伺候條至急御指揮相成度候也

追テ本文伺ノ通ニ有之候ハ、内藏兩省ヘハ本省ヘ御指令ノ旨趣御達相成度此段副テ上申候也

本政官指令 明治十七年十二月二十二日

伺ノ通

第六款 地方經濟ニ於テ土木費借入方

○第二百二十四

地方經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件明治二十三年一月二十一日公布
法律第三號

二十一日公布
法律第三號

朕地方費經濟ニ於テ非常災害ノ爲メニ要スル土木費借入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 府縣ニ於テ非常災害ノ爲メ臨時ノ土木費ヲ要シ一時地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得十箇年以内ノ償還期限ヲ以テ借入金ヲナスコトヲ得

第二條 前條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其年度初現在高ノ三分一マテ借入ル、コトヲ得但本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

第三條 借入金ノ認可ヲ得ントスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル借入ノ方法、利息ノ定率

第九條 各府縣内儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時之ヲ検査スヘシ

第十條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ出納決算ヲ翌年度通常府縣會ノ初メニ於テ府縣會ニ報告シ仍ホ内務大藏兩大臣ニ報告スヘシ
同上法律ヲ以テ
本條ヲ改正ス

大藏大臣ハ每年中央及ヒ府縣儲蓄金ノ出納決算ノ要領ヲ告示スヘシ
第十一條 此方法ハ或十ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以テ其保存ノ方法ヲ定ムヘシ

附則 同上
追加

本法改正ノ爲メ府縣儲蓄金明治二十三年度内ニ於テ施行スヘキ利殖ノ方法ヲ定メ及ヒ收入豫算又ハ管守支給ノ方法ニ改正ヲ要スルトキハ府縣知事ハ常設委員會ニ付シ之ヲ議決セシムルコトヲ得

○第二百三十一 備荒儲蓄金取扱順序 明治二十三年三月十四日
大藏省訓令第三十四號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

備荒儲蓄金取扱順序 明治二十三年度以降左ノ通心得ヘシ
但收支科目及報告書式ハ別ニ頒ツ (非式畧ス)

備荒儲蓄金取扱順序

第一條 備荒儲蓄法第四條ニ因リ府縣儲蓄金ノ管守支給及利殖ノ方法ヲ定メ許可ヲ得タルトキハ府縣知事ハ該年度ノ收支概計書別紙第一號ヲ製シ「前年度三月末日マテニ」大藏大臣ヘ差出スヘシ
第二條 府縣儲蓄金ノ内現金ヲ銀行等ヘ預入ラナストキハ其金額ニ對スル抵當ヲ要スヘシ

キハ勿論其抵當ハ(公債證書)ヲ取置クヘシ(二十六年三月訓令第八號ヲ以テ)
 第三條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルトキハ之ヲ猶豫シ
 又ハ免除スルノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ
 第四條 地租ノ貸與金ヲ受タルモノ其返納年限内ニ於テ利引ヲ以テ一時上納ナシタル爲
 メ該府縣儲蓄金利子平均ノ分合ニ準シ利引ノ方法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議
 定セシムヘシ
 第五條 米穀ヲ貯積スル爲メ倉庫ヲ建築シ及借庫料番人給料等ニ係ル諸費用(郡市町村吏員費ノ
 如キハ此限ニアラ
 ス)並米穀(公債證書)ノ賣買等ニ關スル諸雜費及損失ヲ府縣儲蓄金ノ内ヨリ支辨スルノ方
 法ヲ設ケントスルトキハ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ(同上)
 第六條 備荒儲蓄法第七條ニ依リ中央儲蓄金ノ補助ヲ請求セントスルトキハ府縣知事ハ災
 害ノ景況ヲ具シ第四號第五號第六號書式ノ計算書ヲ添へ内務大藏兩大臣ニ稟請スヘシ(十
 七年二月訓令第十二號
 ナ以テ本條ヲ改正ス)
 第七條 中央儲蓄金ヨリ補助ヲ要シタルトキ府縣知事ハ其顛末ヲ管下ヘ告示スヘシ
 第八條 凡府縣儲蓄金ノ出納ハ每半期報告書(別紙第二號ノ)
 式ニ因ルヘシ)ヲ製シ上半期ハ十月中下半期ハ翌
 年四月中其地ヲ發シ大藏大臣ヘ差出スヘシ
 第九條 府縣儲蓄金ノ出納ハ便宜ニ從ヒ出納簿(現金米穀(公債證書)等ノ受
 拂ヲ總括スルモノヲ云フ
 或ハ收支ノ科目ニ因リ出納ノ
 内譯簿(現金米穀(公債證
 書)ノ所在ヲ分チ
 內譯簿明カニスル帳簿ヲ云フ
 同價證書)
 下改ム)ヲ製シ置キ常ニ其會計ヲシテ明瞭ナラシムヘシ(二十六年三月訓令第八
 號ヲ以テ(公債證書)ノ
 下改ム)

第十條 備荒儲蓄法第十條ニ因リ府縣儲蓄金ノ精算報告書(別紙第三號ノ
 式ニ因ルヘシ)ヲ製シ府縣會ヘ報告
 ノ後内務大藏兩大臣ヘ差出スヘシ
 第十一條 府縣知事ハ府縣儲蓄金ノ年度首現在高表(第七號書式)ヲ調製シ年度首ノヨリ五
 日以内ニ其地ヲ發シ之ヲ大藏大臣ヘ差出スヘシ(二十七年二月訓令第十二
 號ヲ以テ本條ヲ改正ス)
 第十二條 府縣儲蓄金或ハ貯積米ノ検査ハ大藏省派出官吏ノ便宜ニ因リ府縣知事ヘ通牒セ
 ス直ニ其所在ニ就キ検査スルコトアルヘシ尤此場合ニ於テハ派出官吏ハ大藏大臣ノ命令
 書ヲ携帯スルモノトス
 第十三條 備荒儲蓄法第四條ニ依リ規定スル府縣儲蓄金施行規則ノ外別ニ儲蓄金ニ關スル
 出納規程及救與内規ノ類ヲ設ケ若クハ之レヲ變更スルトキハ之ヲ内務大藏兩大臣ニ報告
 スヘシ(同上勅令ヲ以テ
 本條ヲ追加ス)

● 伺指令

● 備荒儲蓄金ニ屬スル米穀代價計算方ノ件(明治二十三年三月六日(電信)
 山形縣問合)
 從來ノ米穀ヲ其儘貯存スルトキ儲蓄法第七條ノ百分ヲ五ヲ計算スルニハ時價ヲ見込ヘキヤ
 大藏省總務局回答 明治二十三年三月六日
 御問合ノ儲蓄米計算ハ元價ヲ至當トス
 ● 備荒儲蓄救助借家料ノ件(明治二十六年七月二十九日
 大分縣書記官照會)
 本縣備荒儲蓄施行規則ニ依リ非常暴災ノ節借家ヲ爲シ又ハ假屋ヲ掛ケ罹災ノ窮民ヲ救助ス
 ルコト有之右ノ場合ニ於ケル借家料並ニ假屋所要ノ竹木其他ノ借料ハ救助費中避難所諸費

ヨリ支出可然モノト相見込候得共同節ニハ人足賃、運搬費、薪、炭、油、蠟燭類トノ解疏有之
主要ナル借家料、假屋費ノ明文無之尤モ他府縣ニ在テハ從來儲蓄費中ノ家屋其他借料ヨリ
支出致居哉ニ候得共是以テ救助費ト儲蓄費トヲ混同シ整理方其宜シキヲ得タルモノトモ不
被存候條其相當科目御指示ニ預リ度

追テ公債證書交換拂受ノ儀ハ現金ノ收支ニ關係無之モノニ付公債證書出納ノ部ノミニテ
受拂ヲ爲シ候得ハ可然哉

大藏省國債局長心得回答 明治二十六年八月九日

借家料ハ小屋掛料ヲ支給スル者ニハ其内ヨリ差引ヲ爲シ若シ施行規則ニ於テ假小屋ノ
費用ヲ別ニ支出スルモノハ小屋掛料法律ノ制限内ニ於テ支辨シ科目ノ儀ハ御見込ノ通
ニテ可然存候

尙以御追書公債證書交換受拂ノ儀ハ御見込ノ通ニテ可然存候

(附言) 二十三年九月法律第八十五號(符號第七十一)ヲ以テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別
スルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ共同ノ備荒儲蓄金トス

第八章 府縣稅地方稅滯納處分方ノ件

○第二百二十三 地方稅及備荒儲蓄金滯納者處分法 明治二十二年十二月二十八日(十二月卅日公布) 法律第三十三號

地方稅(及備荒儲蓄金)滯納者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地方稅及備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ(但備荒儲蓄金

置條項中區町村會ニ於テ監業委員選舉及勸業委員旅費日當町村費支辨方ノ件 ●二十一
年十月勅令第六十七號(符號第五百四十六)航路標識條例中區町村費ヲ以テ標識設置ノ件
ヲ掲ク其他符號第五百四十七號第五百四十九ニ於テ區町村費ニ依リ標識設置ニ關スル件
ヲ掲ク ●二十二年六月勅令第八十三號(符號第五百六十五)西洋形船海員雇入雇止手數料
ヲ市町村ノ收入トスルノ件ヲ掲ク ●二十七年勅令第十四號(符號第二百七十四ノ乙)ヲ
以テ傳染病豫防費市町村負擔ノ件ヲ定ム

○第二百二十五 市制町村制理由書 明治二十一年四月三十五日 號外

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ
從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ
區ヲ造成セサル可カラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ公法民法ノ二者ニ於テ共ニ一個
人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ムル所ニ依
テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意思ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治
區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受買賣シ他人ト契約ヲ結ビ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區
域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ
統轄ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ
設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス
國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニス
ル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機體ト爲シ以テ其部内ノ

利害ヲ負擔セシメサル可カラズ
 現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制
 アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分カ自
 治ノ制ヲ兼テ有ルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラズ今前述ノ理由ニ依
 リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スヲ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ
 自治體ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニ
 ハ其自治體共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト雖モ全國ノ統治ニ必
 要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除ク外之ヲ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町
 村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者
 ハ之ヲ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ
 維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委
 任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ
 又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスル
 ニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉クルヲ得可ク人民ハ自
 治ノ責任ヲ分チ以テ專ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達ス
 ルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ
 實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源タリ

○第百六十二乙

人民私設ノ橋梁渡津道路等消防組員ノ賃錢請求差止ノ件 明治二十七年六月十三日
內務省訓令第十二號 府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十四
 年五月第六號ヲ以テ及訓令置候處本年勅令第十五號消防組規則ニ依リ設置シタル消防組員ニ
 シテ水火災警防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨
 豫テ免許人ヘ示達シ置クヘシ

第三款 道路並木保存

○第百六十四

道路並木枯損木處分方ノ件 明治六年五月六日
太政官達第百四十六號 府縣

諸道路並脇往還並木ノ儀ハ風雨寒暑ノ節行客ヲ防護スルヲ以テ猥ニ不可伐取候ニ付自今伐
 木願出候節ハ實況篤ト遂検査田畑ノ障礙ニ相成分ハ(大藏省)ヘ申立許可ノ上處分可致尤障
 碍ニ相成候下枝伐透シ或ハ立枯根倒レ風折等ノ損木有之節ハ村々出願次第遂検査府縣限リ
 伐木差許木品入札拂下ノ上(代金同省)上納致シ跡地苗木植付等ノ儀ハ從前仕來ノ通相心
 得難決儀モ有之候ハ(同省)可伺出事

○第百六十五

道路並木保存取締方ノ件 明治七年八月十五日
內務省達乙第五十二號 府縣

道路並木ノ儀ハ昨明治六年太政官第百四十六號公布ノ趣モ有之候處旨趣一般ニ徹底不致哉
 往々其根ヲ掘リ其皮ヲ剝キ其幹ヲ削リ其心ヲ燃シ或ハ樹脂ヲ採テ我生業ヲ營者有之候夫カ
 タメニ根倒レ風折レ等出來候趣ニ相聞右並木ハ兼テ相達候通風雨寒暑ノ節行客ヲ保護致シ

候儀ニ付人民相互ヒニ是ヲ培養可致筈ノ處却テ右等ノ所爲ニ及ヒ候ハ不都合ノ至ニ候條厚ク人民ヘ説諭ヲ加ヘ區戶長ニ於テ精々取締方注意爲致今後心得違右等ノ所業致候者有之候ハ、嚴密ニ探索及ヒ相當ノ處分取計可申此旨相達候事

(附言) 二十年内務省令第三號(符號第百二十七)ヲ以テ地方稅支辨ニ係ル並木枯損木拂代金地方稅土木費雜入ニ組入レ並木植繼費ハ該土木費ヨリ支出スヘキ旨ヲ示ス

第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十六條 此ノ法律ニ關ル告訴ノ時效ハ六月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第六款 消防組諸則

○第百七十五乙 消防組規則 明治二十七年二月九日(二月十日公布) 勅令第十五號

朕消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

消防組規則

第一條 府縣知事水火災警戒防禦ノ爲メ必要ノ地ニ消防組ヲ設置スルトキハ此ノ規則ニ定ムル所ノ條規ニ依ルヘシ

第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ

町村制第百十六條第三項ニ依リ町村組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ消防組ノ設置組織ハ其ノ組合ノ區域ニ依ルコトヲ得

府縣知事ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ市町村内ノ一以上ノ大字若クハ區ヲ以テ消防組ノ設置區域ト爲スコトヲ得

第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ従事ス
小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス

第五條 消防組ハ府縣知事之ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但水火災ニ際シ警察官臨場ノ暇ナキトキハ組頭
若クハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ水火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其警防ニ應援スヘシ
危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ
其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ水火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若クハ
其委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合
ハ此ノ限ニアラス

第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條 府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村又ハ町村組合ヲシテ消防組員ニ一定
ノ手當並ニ被服等ヲ給セシムルコトヲ得

第十二條 消防組ノ使用ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ市町村及
町村組合ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村又ハ町村組合ノ負擔トス

第十四條 從來ノ市町村消防組ニシテ其ノ區域此ノ規則第二條ニ該當スルモノハ此ノ規則
施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ於テ府縣知事此ノ規則ニ從テ其ノ組織ヲ改ムヘシ

消防組ニ關スル從來ノ市町村條例ハ前項ニ依リ組織ヲ改メタル日ヨリ之ヲ廢止ス

第十五條 前條ニ當ラサル從來ノ消防組ハ官ノ許可ヲ得タルト否トニ拘ハラズ此ノ規則施
行ノ日ヨリ總テ廢止ス

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ内務大臣定ムル所ノ綱領ニ依リ府縣
知事之ヲ定ム

第十七條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス

第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

第十九條 第八條及第十條ハ此ノ規則發布ノ日ヨリ施行シ從來ノ消防組ニシテ第十四條ニ
依リ組織ヲ改ムヘキモノ及第十五條ニ依リ廢止セラル可キモノニ適用ス

○第七十五條

消防組規則施行概則

明治二十七年二月十日
内務省令第一號

消防組規則施行概則左ノ通之ヲ定ム

消防組規則施行概則

- 第一條 消防組並部ニハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ名稱ヲ附スヘシ
- 第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監北海道ハ北海道廳長官以下倣之)ハ必要アリト認ムルトキハ消防組若クハ部ニ事務所ヲ設クルコトヲ得其設置備品及執務章程等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第三條 消防組若クハ部ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ人員ヲ以テ之ヲ編制スヘシ
- 第四條 消防手ハ年齡滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナル者ヲ選フヘシ
- 但組頭及小頭ハ消防手ノ中ヨリ選拔ス
- 第五條 前條組頭小頭及消防手ノ採用ニ關シ規定ヲ設クルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 左ニ掲クル者ハ消防手トナルコトヲ得ス
 - 一 公權褫奪若クハ停止中ノ者
 - 二 禁治産中ノ者
 - 三 公費ヲ以テ救助中ノ者
 - 四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサル者

- 第七條 消防組員在職中前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直チニ其職ヲ免スヘシ
- 第八條 前數條ニ掲載セルモノヲ除クノ外尙ホ消防組員ノ命免及辭職ノ手續等ニ關シテ規定ヲ設ルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第九條 水火災ノ信號及信號擔當者等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第十條 消防組規則第七條ノ場合ニ於テ消防組ヲシテ機敏ニ相應援セシムルノ規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第十一條 消防組員ヲシテ參集又ハ現場ヘ出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ他人ヘ對シ強迫カマシキ所爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サシメサル爲メ細則ヲ定ムヘシ
- 第十二條 消防組ハ期ヲ定メ演習ヲ爲スヘシ其方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル
- 第十三條 細則ノ定ムル所ニ從ヒ建物ヲ造設若クハ修繕スルノ必要アルトキハ警察署長ハ警部長ノ指揮ヲ受ケテ市參事、會町村長ニ移牒シテ之ヲ爲サシムヘシ
- 第十四條 消防器具ノ種類、備置場、保存ノ方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル
- 第十五條 組頭ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ器具ノ現況ヲ市參事會、町村長ニ報告スヘシ
- 第十六條 消防組ニハ組員名簿及消防器具目錄ヲ備置クヘシ
- 第十七條 地方ノ狀況ニ依リ消防組員ニ被服並月手當、出場手當、傷痍手當等ヲ給與スルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第十八條 警部長ハ少クトモ毎年一回警察署長ハ少クトモ每三ヶ月一回消防組ヲ巡檢シ紀

律ノ保持、器具ノ完備等ヲ監査スヘシ

第十九條 懲戒ハ情況ノ輕重ニ從ヒ解職、停職、停給(月手當アル)及譴責トス

第二十一條 停職ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス又停給ハ三箇月分ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十二條 懲戒處分ノ手續ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

此概則ニ於テ市町村ト稱スルハ北海道ノ區ヲ包含スルモノトス

市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此概則ニ規定シタル市參事會、町村長ノ職務及關係

ハ區長又ハ戸長ニ屬スルモノトス

第七款 帶刀ニ係ル件

○第七十五丁 帶刀禁止處分ノ件明治九年三月二十八日 第三十八號布告

自今大禮服着用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨

布告候事

但違犯者ハ其刀可取上事

○第七十五戊 官國幣社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許ノ件明治九年七月二十日 教部省達達第二十四號府縣

別紙甲第五號之通神宮並官國幣社神宮へ相違候條此旨爲心得相違候事

別紙甲第五號

諸神社神輿渡御ノ節供奉之者從前甲冑又ハ大紋素袍等著用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ

限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋ハ届出候儀ト可心得此旨相違候事

神宮並官國幣社神宮

○第七十六甲 府縣社以下神輿供奉中古例ニ依リ帶刀差許ノ件明治十一年三月四日 內務省達乙第二十一號府縣

諸神社神輿渡御之節供奉之者帶刀之儀ニ付明治九年舊教部省甲第五號ヲ以神宮並官國幣社

へ相違置候趣處右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有

之向其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦候尤其都度其筋へ可爲届出儀ト可心得此旨相違候事

但普通祭服着用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

第二章 監獄及囚人護送ニ關シ郡市町村長ノ取扱及府縣會議員

等心得方ノ件

第一款 監獄則及同施行細則

○百七十六乙 監獄則明治二十二年七月十二日(七月十三日公布) 勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者

ヲ拘禁スル所トス

四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場

刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場

不論罪ニ係ル幼者及瘖啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

集治監北海道ニ在ルモノヲ除ク及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除ク之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除クハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典

華族令

第一條 凡ソ爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮内卿之ヲ奉行ス

第二條 爵ヲ分テ公侯伯子男ノ五等トス

第三條 爵ハ男子嫡長ノ順序ニ依リ之ヲ襲カシム女子ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス但現在女戸主ノ華族ハ將來相續ノ男子ヲ定ムルトキニ於テ親戚中同族ノ者ノ連署ヲ以テ宮内卿ヲ經由シ授爵ヲ請願スヘシ

第四條 嗣今有爵者又ハ戸主死亡ノ後男子ノ相續スヘキ者ナキトキハ華族ノ榮典ヲ失フヘシ

第五條 有爵者ノ婦ハ其夫ニ均シキ禮遇及ヒ名稱ヲ享ク

第六條 華族戸主ノ戸籍ニ屬スル祖父母、父母及妻及嫡長子孫及其妻ハ俱ニ華族ノ禮遇ヲ享ク

第七條 本人生存中相續人ヲシテ爵ヲ襲カシムルコトヲ得ス

但刑法又ハ懲戒ノ處分ニ由リ爵ヲ奪ヒ又ハ族籍ヲ削ラレ更ニ特旨ヲ以テ相續人ニ授クル者ハ此例ニ在ラス

第八條 華族ノ戸籍及身分ハ宮内卿之ヲ管掌ス

第九條 華族及華族ノ子弟婚姻シ又ハ養子セントスル者ハ先ツ宮内卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 華族ハ其子弟ヲシテ相當ノ教育ヲ受ケシムルハ義務ヲ負フヘシ

第十一條 華族ハ相續及家政上ノ關係ヲ定ムル爲メ法律命令及華族ニ關スル規定ノ範圍内ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得二十七年六月宮内省達甲第二號ヲ以テ本條以下ヲ追加ス

第十二條 家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ經ヘシ其條項ヲ改正増補スルトキ亦同シ

第十三條 華族ノ戸主ニシテ監視ニ付セラルヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ華族ノ稱ヲ除キ其爵位ヲ返上セシム

第十四條 第五條及第六條ノ禮遇ヲ享クル者ニシテ前條ニ當ルトキハ其禮遇ヲ禁止シ位記アル者ハ之ヲ返上セシム

華族ノ嫡長子孫ニシテ前條ニ當ルトキハ華族ノ榮典ヲ繼承スルコトヲ得ス

第十五條 華族ノ戸主及第五條第六條ノ禮遇ヲ享クル者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其禮遇ヲ停止ス

- 一 禁錮ノ刑ニ處セラレ其刑期間ノ者
- 二 刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋若クハ責付中ノ者又ハ監視中ノ者
- 三 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 四 第十條ノ義務ヲ充タサル者
- 五 華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者

第十六條 華族タルノ體面ヲ汚辱スル失行アル者ハ第十三條第十四條又ハ第十五條ニ依

リ處分ス

第十七條 華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者ハ榮典ヲ辭スルコトヲ得

第十八條 第十三條乃至第十七條ノ處分ハ勅裁ヲ仰キ宮内大臣之ヲ行フ但第十五條第四第五第十六條及第十七條ノ處分ニ付テハ華族中ヨリ勅選セラレタル七名以上ノ委員ヲシテ評議セシメ勅裁ヲ仰クヘシ

○第二百五十七 華族養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ送入籍ヲ了シタルトキ爵位局へ通牒ノ件明治十八年十二月八日 宮内省達乙第二號 華族有之府縣

華族ノ養子女縁組復籍及貫屬替轉居等ノ節送入籍ノ手續ヲ了シ候ハ、其郡區長ヨリ直チニ當省(華族局)へ通牒セシムヘシ此旨相達候事華族局ハ爵位局ト改稱ス

○第二百五十八 華族貫屬替願出方ノ件明治二十年十月十五日 宮内省達第五號 華族一般

自今地方ニ就キ産業ニ從事シ或ハ家計ヲ維持スルノ目的ヲ以テ各府縣北海道へ移住セントスルモノハ其事情ヲ具シ貫屬換願出ヘシ其目的至當ト認ムルモノハ聞届クヘシ

第二款 士族

○第二百五十九 士族貫屬替取扱方ノ件明治四年四月二十三日布告 府(藩)縣

士族卒貫屬替願出候節ハ戶籍法第八則ノ通取扱處分濟ノ上雙方地方官ヨリ其時々可届出尤戶籍表加除ノ儀ハ第五則ノ通可相心得事

(附言) 十年内務省達乙第十一號ヲ以テ士族身分異動届出ニ及ハサル旨ヲ達ス●十二年

太政官第八號(符號第二百四十二)ヲ以テ士族實屬替等戶長ニ届出シムヘキヲ達ス

○第二百六十 平民在官中子孫ニ至ル迄士族ヲ以テ取扱ノ件明治五年十一月八日 太政官達第三百三十五號諸省府縣

○第二百六十一 府縣社以下祠官祠掌ノ身分士族ニ準シ取扱ノ件明治十二年十一月十一日 太政官達第四十五號府縣

(附言) 七年布告第七十四號僧尼族籍編入(符號第百九十)規定ニ於テ一寺住職ノ者身分

取扱士族ニ準スヘキコトヲ揭ク ●九年布告第七十五號(符號第二百五十五)ヲ以テ士族平民合家ノ者ハ士族ニ編入ノ旨ヲ定ム

第三款 平民

○第二百六十二 華士族ノ子弟民籍ニ加入ヲ許ス明治五年四月五日 布告第百十五號

○第二百六十三 華士族分家ノ者平民籍ニ編入方明治七年七月十日 布告第七十三號

(但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事) 祿制廢止ニ付消滅ス

棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十

三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ十三年三月布告第百五十四號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セムル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近

セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ十五年九月布告第四十八號ヲ以テ本條ヲ改正ス

罰則

第二十二條 醫師(衛生委員)此規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス十八年二月布告第二十四號

ヲ以テ(衛生委員)ナ(局長)ニ改ム

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

(附言) 二十二年七月内務省令第八號(符號第百七十七)監獄則施行細則中在獄人中傳染病

ニ罹リタル者アルトキ市町村長ニ通知ノ件ヲ揭ク ●二十三年九月海軍省令第十四號(符號第四百七十五)海軍監獄則施行細則中在監人中傳染病者アルトキ市町村長ニ通知ノ件

ヲ掲ク●十六年二月太政官達第八號(符號第百二十三)ヲ以テ傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者ノ費用地方稅支辨ノ件ヲ定ム●二十七年勅令第十四號(符號第百七十四ノ乙)ヲ以テ傳染病豫防費府縣稅市町村費負擔方ヲ定ム

○第二百六十六 傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡ノ官吏准官吏ニ手當金給與

ノ件明治十九年七月十三日
附明令第二十三號各官廳

官吏准官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

- 一 手當金ヲ分チ吊祭料、救助料、療治料ノ三種トス
- 一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
- 一 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス
- 一 吊祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス
- 一 救助料ヲ分テ二等トス
 - 一 一等 俸給五箇月分日給百五十日分
 - 一 二等 俸給三箇月分日給九十日分

- 一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス
- 一 療治料ハ一日壹圓ヲ給ス但官ヨリ治療スル者ハ之ヲ給セス

○第二百六十七 海軍軍人艦船營備夫虎列刺病取扱手續中市町村長關涉ノ件
明治十九年七月十九日

●藥品營業並藥品取扱規則(明治二十二年三月十五日(三月十六日公布) 法律第十號)

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出(シ)

附錄 傳染病豫防費府縣稅市町村費負擔方ノ件

○第二百七十四 傳染病豫防上必要諸費府縣稅市町村費負擔ノ件(明治二十七年二月七日(二月八日公布) 勅令第十四號)

朕傳染病豫防上必要ノ諸費ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣知事ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ市町村ヲシテ左ノ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

- 一 一種痘ニ關スル諸費
- 一 豫防消毒ニ要スル諸費
- 一 避病院、隔離病室又ハ隔離所ニ關スル諸費
- 一 豫防並ニ救療ノ爲メ備入タル醫師ニ關スル諸費

第二條 府縣知事ニ於テ傳染病流行ノ勢盛ニシテ前條ニ記載シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ市町村ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキハ其ノ負擔ニ堪ヘサル費額ノ支出ハ府縣稅、府縣制ヲ實

第三條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則第十三條第十四條第一項及第十五條第二項ノ費用ハ府縣稅、府縣制ヲ實施セサル府縣ニ於テハ地方稅ノ負擔トス

第九類 社寺

第一章 神社氏子及社寺總代府縣社以下神官等ニ關シ郡市町村長等心得ノ件

第一款 町村鎮座産土神氏子去就及社寺總代等ノ件

○第二百七十五

町村鎮座氏神氏子去就ノ件明治十五年五月一日 内務省達乙第二十八號府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ヲ付各自ノ信否ニ任セ猥ニ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得已場合有之甲社ノ氏子一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署爲届出明細帳引直シノ儀當省ヘ可申出此旨相達候事

但雙方協議不整節ハ受理スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○第二百七十六

社寺總代ヲ置キ社寺ニ關スル事務取扱及總代選任等ノ件明治十四年七月二十一日 内務省達乙第三十三號府縣

各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相撰ミ戶長役場ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論寶物祈禱費儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ其(共有)ニ屬スヘキモノト其神官任職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事二十四年五月訓令第八號ヲ以テ(共有)ヲ(社寺有)ト改ム但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若ハ戶長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪
其他不貞ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ同上訓令ヲ以テ
但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ本項ヲ增補ス

第二款 府縣社以下神職ニ係ル件

○第二百七十七 府縣社以下神職ノ神職ニ關スル件明治二十七年二月廿七日(二月廿八日公布) 勅令第二十二號

第一條 府縣社及郷社ニ左ノ神職ヲ置ク

社司 一人

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第二條 社以下神職ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府縣社及郷社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ承ケテ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ従事ス

第五條 社以下神職ノ社掌ハ神明ニ奉仕シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ氏子(氏子ナキトキハ信徒)總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ推薦セシメ其ノ中ヨリ之ヲ補ス

候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 社司及社掌ハ判任官ニ待遇トス

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○第二百七十八 府縣社以下神官選舉ノ節皇典講究所ノ卒業證書又ハ試験濟證書ヲ添付セシムル件明治十五年八月十三日 內務省令第五號 北海道廳府縣神祇官ニ除ク

今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官選舉ノ節該所ノ卒業證書無之者ハ皇典講究所本分所ノ試験ヲ受サセ試験濟ノ證書ヲ相渡候等ニ付今後選舉出願ノ向ハ該所卒業證書寫若クハ試験濟ノ證書ヲ副へ願出候者ニ限り認可ヲ與へ候儀ト可心得此旨相達候事

○第二百七十九 皇典講究所ノ試験ニ拘ハラヌ府縣社以下神職タルヲ得ヘキ資格ノ件明治二十五年三月十七日 內務省訓令第五號 北海道廳府縣神祇官ニ除ク

府縣社以下神官ノ儀ハ自今左ニ掲クルモノニシテ性行其他適當ト認ムル者ハ皇典講究所學階試験ニ不拘神官タルノ認可ヲ與フヘシ

祠官

- 一 維新前五代以上其神社へ奉仕セシ者及ヒ其子孫
- 一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤績ノ者
- 但現職祠掌ヨリ祠官ニ選舉スルハ此限ニアラス
- 一 有位者又ハ判任官以上滿二年奉職セシ者
- 一 該神社所在ノ府縣ニ於テ一箇年直接國稅十圓以上ヲ納ムル者

祠掌

- 一 維新前五代以上其神社へ奉職セシ者及ヒ其子孫
- 一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤績ノ者
- 一 該神社所在地ノ町村長三年以上奉職セシ者

第三款 府縣社以下神職奉務規則及懲戒例

○第二百八十 府縣鄉村社神職奉務規則 明治二十四年七月六日 內務省訓令第十二號 北海道廳府縣

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正ス

府縣鄉村社神官奉務規則

- 第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ
- 第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ケナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ奮勵ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○第二百八十二 府縣社以下神職懲戒處分ノ件 明治二十七年三月二日 內務省令第四號

第一條 府縣社以下神社ノ神職ニシテ明治二十四年七月當省訓令第十二號府縣鄉村社神官奉務規則ノ規定ニ違背シタルトキハ北海道廳長官府縣知事之ヲ懲戒ス但右訓令ハ無格社ノ神職ニモ適用ス

第二條 前條ノ懲戒ニハ官吏懲戒例ヲ准用ス

第四款 神官神職ニ於テ議員選舉ニ關涉スヘカラサル件

○第二百八十四 衆議院議員選舉ニ就キ神官神職ニ注意方ノ件 明治二十七年二月六日 内務省訓令第五號北海道廳府縣
衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總
テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競争ニ關與ス可カラス專心一意本務ニ從事セシムヘシ

第二章 僧侶教師ニ關スル件

第一款 寺院住職任免及教師ノ進退其他盲僧ニ係ル件

○第二百八十五 寺院住職ノ任免及教師ノ等級進退ヲ管長ニ委スル件 明治十七年八月十一日 太政官布達第九號
自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委
任シ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄以ニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス
第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ム可シ
但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置ク
モ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ム可キ規則ハ神佛各其教規宗制ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得可シ
第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ

- 一 教規
- 一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事

一 教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ム可キ者トス

- 一 宗制
- 一 寺法
- 一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
- 一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事
- 一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類ヲ保存スル事

以上佛道管長ノ定ム可キ者トス

第五條 佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得テ
之レヲ稱スルコトヲ得

右布達候事

○第二百八十六 管長身分取扱ノ件 明治十七年八月十一日 太政官布達第六十八號神佛各宗派一般
管長身分ノ儀ニ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル

○第二百八十七 從前ノ教導職タリシ者身分取扱ノ件 明治十七年八月十一日 太政官布達第六十九號神佛各宗派一般
今般教導職廢セラレ候ニ付テハ從前教導職タリシ者ノ身分ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準シ
取扱フ者トス

第二款 盲僧ニ係ル件

○第二百八十一 丙 盲僧取締方ノ件明治八年七月十二日 教部省達達書第二十九號府縣
元青蓮院配下盲僧ノ備者總テ天台宗ニ於テ所轄取締可致様其管長へ達置候條此旨爲心得相達候事

但盲僧ノ一派永存之旨趣ニ無之候條爾後盲子養取或ハ他人へ傳業候等之儀ハ勿論不相成筋ニ候事八年省達達書第三十五號ヲ以テ但書ヲ追加ス

○第二百八十一 丁 盲人ニ非スシテ盲僧業ヲ營ムヲ禁スル件明治十三年七月十二日 内務省達乙第二十二號府縣
明治八年教部省第三十五號盲僧之儀ニ付達書自今相廢候條此旨相達候事

但盲人ニ非スシテ該業相營候儀ハ不相成筋ニ候事

第三款 教師僧侶ニ於テ議員選舉ニ關涉差止メノ件

○第二百八十一 已 衆議院議員選舉ニ就キ教師僧侶ニ注意ノ件明治二十七年二月六日 内務省 勅令第六號神佛各宗派管長
布教傳道ニ從事スルモノハ超然政黨以外ニ特立スルニ非サレハ政黨ノ競争ヨリシテ終ニ檀信徒ノ圓滿寺院ノ鞏固宗派ノ安寧秩序ヲ傷クルニ至ルノ恐ナシトセス殊ニ信教ヲ利用シテ政黨競争ノ器具トナスカ如キハ不穩當ノ至ニシテ衆議院議員選舉法第十二條ノ精神ニモ違背スルノ嫌アルノミナラス萬一信徒ヲ誤ラシムルカ如キ事アラハ終ニ或ハ國家ノ安寧ヲ傷クルニ至ルノ虞ナシトセス依テ今回ノ衆議院議員改選ニ際シテモ教師僧侶タルモノニ於テ心得違ナキ様嚴重ニ訓諭シ置クヘシ

第一章 土木事業及水道工事

第二章 道路橋梁渡津ニ關シ市町村長心得方ノ件

第六類 警察及監獄

第一章 警察諸規則中郡市町村長及議會ノ議員ニ關スル件

第二章 監獄及囚人護送ニ關シ郡市町村長ノ取扱及府縣會議員等心得方ノ件

第七類 戶籍、人事、相續、種族

第一章 戶籍

第二章 人事

第三章 相續

第四章 種族

第八類 衛生

第一章 衛生會及傳染病豫防等

第二章 醫師藥劑師及賣藥等ニ關シ市町村長取扱方等ノ件

全 十八
二十
二十一
全
二十六
二十八
三十
三十一
全

旅費

- 第二七 郡區書記戶長等國庫支辨用務ヲ以テ旅行ノ旅費支給ノ件 四十一
- 第二八 市町村吏員國庫支辨ノ用ニ付旅行ノ旅費支給スヘキ旅費ノ件 四十二
- 第二章 郡區長郡區書記任用試驗及其他ノ官吏任用ニ付郡市町村長取扱ノ件
- 第一款 文官任用令及文官試驗規則
- 第二九 文官任用令 四十三
- 第三〇 文官試驗規則 四十五
- 第三〇乙 文官高等試驗細則 四十八
- 第三〇丙 判任官高等試驗ヲ得ル件 四十八ノ四
- 第二款 郡區長試驗及特別任用法
- 第三一 郡區長試驗科目ノ件 全
- 第三二 郡區長ノ試驗ニ關スル條規 四十九
- 第三三 郡區長特別任用ノ件 五十
- 第三款 陸軍下士文官採用及三等郵便局長ノ任用等ニ關スル件
- 第三四 陸軍下士文官採用細則 全

關スル件

- 第五一 府縣立師範學校長俸給公立學校職員退隱料及遺族扶助料法 百十三
- 第五二 師範學校長俸給公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則 百十九
- 第五三 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於ケル學校職員ノ資格及在職年數算定ノ件 百二十七
百二十九
- 何指令
- 第三款 府縣立師範學校並公立學校職員退隱料遺族扶助料及小學校教員恩給基金管理等ニ關シ郡役所會計吏市町村收入役等取扱ノ件
- 第五四 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則 百三十一
- 第五五 府縣小學校教員恩給基金管理規則 百三十二
- 第三章 皇宮警手巡查看守給助例中公吏取扱ノ件
- 第五六 皇宮警手給助例 百三十三
- 第五六下 巡查看守給助例 百三十九
- 第四章 年金恩給金等郡役所ニ於テ渡方ノ件
- 第五七 恩給諸祿仕拂順序中年金及恩給金交付方ノ件 百四十二
- 何指令 全

附錄 官吏服務及懲戒ニ關スル件

●第五七乙 官吏服務紀律ノ件

百四十二

●第五七丙 官吏懲戒ノ件

●第五七丁 官吏懲戒附達ノ件

百四十二ノ三

●第五七戊 官吏懲戒附達ノ件

百四十二ノ五

●第四類 代議制及地方制

●第五八 議會並議員保護ニ關スル法令

百四十三

●第五九 議會並議員保護ノ件

第一章 衆議院議員選舉ニ關スル件

第一欸 衆議院議員選舉ニ關シ郡市町村長取扱方ノ件

●第六〇 衆議院議員選舉法

百四十四

●六一 衆議院議員選舉法施行規則

百五十七

●六二 衆議院議員選舉法施行細則

百七十五

●六三 衆議院議員選舉法ニ於ケル直接國稅ノ件

百八十三

●何指令

全

差止メノ件

●第一五五 私設道路橋梁等賃錢取立方許可ノ件

全

●第一五六 渡船差立方ノ件

全

●第一五七 橋梁渡船賃金額揭示及受取方ノ件

五百三十

●第一五八 警部巡查區内巡行ノ節道路橋梁渡津等ノ賃錢請求ヲ禁ス

全

●第一五九 私設ノ橋梁渡津新道行進ノ軍隊賃錢請求方ヲ禁ス

全

●第一六〇 私設ノ橋梁渡津道路等巡行ノ憲兵賃錢請求方ヲ禁ス

全

●第一六一 私設ノ橋梁渡津道路等郵便夫集配人賃錢請求禁止

五百三十一

●第一六二 私設ノ橋梁渡津道路等郵便電信局集配人賃錢請求差止ム

五百三十二

●第一六三 私設ノ橋梁渡津道路等電信取扱所配達人賃錢請求差止ム

五百三十三

●第一六三乙 私設ノ橋梁渡津道路等消防組員賃錢差止ノ件

五百三十三

●第一六四 道路並木枯損木處分方ノ件

五百三十四

●第一六五 道路並木保存取締方ノ件

全

第六類 警察及監獄

第一章 警察諸規則中郡市町村長及議會ノ議員ニ

關スル件

第一欸 行政警察

● 第一六六	行政警察規則	五百三十五
● 第一六七	警察賞與規則	五百四十二
● 第一六八	警察賞與規則 二吊祭扶助療治料支給ノ件	五百四十二
● 第一六九	一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方ノ件 傷スル者吊祭扶助料等ノ件	五百四十六
● 第一七〇	第三款 年期奉公人ノ制限及身體ヲ質入書入レ金錢貸借其他娼妓藝妓等ニ關シ制禁ノ件 年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實質買同様ノ所業ヲ禁シ年期奉公人ノ年限ヲ定ムル件	五百四十七
● 第一七一	人身ヲ書入トシテ金錢ヲ貸借スルヲ禁スル件	五百四十八
● 第一七二	金談上養女ノ名目ヲ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲ禁スル件	全
● 第一七三	第四款 幼兒ヲ外國人ニ賣渡シ又ハ婦女ヲ誘惑シテ海外ニ渡航セシムルヲ禁スル件	全
● 第一七四	幼兒ヲ外國人ニ賣渡スヲ禁スルノ件 婦女ヲ誘惑シテ海外ニ渡航セシムルヲ拒絶スル件	五百四十九

● 第一七五	第五款 集會及政社法 集會政社法中議員選舉被選舉及教員學生生徒ニ關スル件	五百五十
● 第一七五乙	第六款 消防組諸則 消防組規則	五百五十六ノ一
● 第一七五丙	消防組規則施行概則	五百五十六ノ四
● 第一七五丁	第七款 帶刀ニ係ル件 帶刀禁止處分ノ件	五百五十六ノ六
● 第一七五戊	官國幣社神輿渡御ノ節供奉帶刀差許ノ件	全
● 第一七五己	府縣社以下神輿供奉中古例ニ依リ帶刀差許ノ件	五百五十七
● 第一七六	第二章 監獄及囚人護送ニ關シ郡市町村長ノ取扱 第一款 監獄則及同施行細則	全
● 第一七七	監獄則施行細則	五百六十七
● 第一七八	第二款 囚人護送手續	全
● 第一七九	囚人護送手續	五百八十四
● 第一八〇	第七類 戶籍人事相續種族	全

第一章 戶籍

第一款 戶籍法則及戶籍取扱手續ニ關スル件

第一節 戶籍法則及出生死去出入寄留等届出方ノ件

●第一七九 戶籍法則

五百八十七

●第一八〇 戶籍法中心得並改正ノ件

五百九十八

●第一八一 戶籍法第五則出生死去出入及寄留等届出ノ件

六百

●第一八二 生死出入寄留届出ノ省令施行以前届漏又ハ施行以前寄留シテ届出ヲ爲サ、ル者届出期限ノ件

六百一

●第一八三 生死出入寄留届出ノ省令施行以前寄留ノ届出アル者取調寄留簿整頓方ノ件

六百二

●第一八四 生死出入寄留届出ノ省令第五條但書ニ依リ本籍地外ノ者ノ差出タル届書取扱方ノ件

六百二

●伺指令

六百三

第二節 戶籍取扱手續及登記書式

●第一八五 戶籍取扱手續

全

●第一八六 戶籍簿副本諸届保存方並寄留届送付ニ及ハサル件

六百十

第二款 絶家廢家廢戶主及遺留財産處分方

第一節 絶家及廢家

●第二四六 單身戶主死亡又ハ除籍後絶家ト爲スノ期限

六百九十九

●第二四七 從前死亡又ハ除籍シタル者跡相續届出期限

全

●第二四八 戶主其家ヲ廢シ他ヘ入夫或ハ養子女トナリ又ハ復籍等出願ノ者取扱方

七百

第二節 廢戶主及失踪逃亡絶家並禁治産者ノ

財産保管ノ件

●第二四九 廢戶主及禁治産者ノ財産保管ノ件

全

●第二五〇 失踪死亡跡遺留財産處分方ノ件

七百一

●第二五一 公吏ノ保管ニ係ル失踪逃亡絶家ノ財産目錄郡長ニ差出方ノ件

七百三

●第二五二 失踪死亡跡遺留財産處分ニ付始審裁判所ノ認許ヲ乞フヘキ件

全

●第二五三 失踪死亡跡遺留財産處分ニ付認許請求書差出方ノ件

七百四

●第二五四 親族又ハ公吏ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺留財産處分ニ付治安裁判所ノ認許ヲ乞フ件

全

● 伺指令

第二款 分家及合家

● 第二五五 合家ヲ禁テ從前合家セシ者分家其他取扱方

七百四
七百六

第四章 種族

第一款 華族

● 第二五六 華族令

全

● 第二五七 華族養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ送入籍ヲ了シ

タルトキ華族局へ通牒方

七百九

● 第二五八 華族貫屬替願出方ノ件

全

第二款 士族

● 第二五九 士族貫族替取扱方ノ件

全

● 第二六〇 平民在官中子孫ニ至ル迄士族ヲ以テ取扱ノ件

七百十

● 第二六一 府縣社以下祠官祠掌ノ身分士族ニ準シ取扱ノ件

全

第二款 平民

● 第二六二 華士族ノ子弟民籍ニ加入ヲ許ス

全

● 第二六三 華士族分家ノ者平民籍ニ編入方

全

第八類 衛生

第一章 衛生會及傳染病豫防等

第一款 地方衛生會規則中郡長市參事會ニ關スル件

● 第二六四 地方衛生會規則 七百十一

第二款 傳染病豫防及種痘ニ關シ郡市町村吏員取扱ノ件

● 第二六五 傳染病豫防規則 七百十三

● 第二六六 傳染病豫防救治ニ從事シ感染又ハ死亡ノ官吏準官吏ニシテ當金給與ノ件 七百十八

● 第二六七 海軍軍人艦船營傭夫虎列刺病取扱手續中市町村長關涉ノ件 全

● 第二六八 陸軍部内傳染病豫防規則中市町村長關涉ノ件 七百二十一

● 第二六九 種痘規則 七百二十四

● 伺指令 七百二十五

第二款 獸類傳染病豫防ニ關シ市町村長取扱方

● 第二七〇 獸類傳染病豫防規則 七百二十七

第二章 醫師藥劑師及賣藥等ニ關シ市町村長取扱

方等ノ件

- 第一款 醫師及藥劑師開業受驗ニ關スル件 七百三十一
- 第二款 藥劑師試驗受驗人心得 七百三十二
- 第一款 賣藥規則及同取扱手續 七百三十三
- 第二款 賣藥規則 七百三十八
- 第三款 藥品營業並取扱規則第八條届出ノ件 七百四十四
- 第四款 藥品營業並藥品取扱規則第八條届出方ノ件 七百四十五
- 附錄 傳染病豫防費府縣稅市町村費負擔方ノ件 七百四十五
- 第九類 社寺
 - 第一章 神社氏子及社寺總代府縣社以下神官等ニ關シ郡市町村長等心得ノ件
 - 第一款 町村鎮座産土神氏子去就及社寺總代等ノ件 七百四十七
 - 第二款 町村鎮座氏神氏子去就ノ件

- 第二七六 社寺總代ヲ置キ社寺ニ關スル事務取扱及總代選任等ノ件 全
- 第一款 府縣社以下神職ニ係ル件 七百四十八
- 第二款 府縣社以下神社ノ神職ニ係ル件
- 第三款 府縣社以下神官選舉ノ節皇典講究所ノ卒業證書又ハ試驗濟證書ヲ添付セシムル件 全
- 第二款 皇典講究所ノ試驗ニ拘ハラス府縣社以下神官タルヲ得ヘキ資格ノ件 七百四十九
- 第二款 府縣社以下神職奉務規則及懲戒例 全
- 第三款 府縣鄉村社神官奉務規則 七百四十八ノ二
- 第四款 府縣社以下神職懲戒處分ノ件
- 第五款 神官神職ニ於テ議員選舉ニ關涉スヘカラサル件
- 第六款 衆議院議員選舉ニ就キ神官神職ニ注意ノ件 七百四十八ノ四
- 第二章 僧侶教師ニ關スル件
 - 第一款 寺院住職任免及教師ノ進退其他盲僧ニ係ル件 全
 - 第二款 寺院住職任免及教師ノ等級進退ヲ管長ニ委任スル件

- 第二八一乙 管長身分取扱ノ件 七百四十八ノ五
- 第二款 盲僧ニ係ル件
- 第二八一丙 盲僧取締方ノ件 七百四十八ノ六
- 第二八一戊 盲人ニ非スシテ盲僧業ヲ營ムヲ禁スル件 全
- 第三款 教師僧侶ニ於テ議員選舉ニ關涉差止ノ件 全
- 第二八一己 衆議院議員選舉ニ就キ教師僧侶ニ注意方ノ件 全
- 第二章 神社寺院取扱方ニ付郡市町村長ニ於テ心得ヘキ諸件
- 第一款 私祭ノ神佛參拜許否處分方及社寺取扱概則等ノ件 七百五十一
- 第二八二 人民私邸内等自祭ノ神祠佛堂衆庶參拜許否處分方ノ件 全
- 第二八三 社寺取扱概則 全
- 第一款 社寺境内伐木取締方
- 第二八四 社寺境内樹木猥ニ伐採ヲ禁スル件 七百五十三
- 第二八五 社寺境内伐木取扱概則 七百五十三
- 第四章 神社寺院什物保護等ニ關シ郡市町村長取

社寺取扱及心得方ノ件

- 第一款 神社寺院所有ノ地所建物取締ノ件 七百五十四
- 第二八六 府縣社以下神社什物取締ノ件 七百五十五
- 第二八七 寺院所有ノ地所建物什物取締ノ件
- 第一款 社寺什物田畑山林寄付金古文書類處分并質入書入等ニ關スル件
- 第二八八 神社寺院古來所傳ノ什物衆庶寄付ノ諸器並祠堂金等處分方ノ件 七百五十一
- 第二八九 社寺持添ノ田畑山林並寄附金古文書類處分方ノ件 全
- 第二九〇 社寺ニ於テ社寺附地所建物什器等ヲ抵當ト爲スル件 全
- 第二九一 神社佛寺持添ノ田畑山林寄附金古文書類處分ニ付心得方ノ件 全
- 第二九二 寺院附屬ノ地所建物什物抵當質買其他財産ニ關スル諸願書長添書ノ件 五百五十七
- 第五章 廢寺及廢合寺院跡地處分方並社殿堂宇等公賣處分後再建等ノ件
- 第一款 廢寺及廢合寺院跡地處分等ノ件

●第一九三 無檀無住ノ寺院廢止處分ノ件

七百五十七

●第一九四 寺院廢合處分方ノ件

七百五十八

●第一九五 無檀無住ノ寺院廢止處分手續ノ件

全

●第一九六 廢合寺院跡地并建物處分規則

全

第二款 社殿堂宇等公賣處分後再建方ノ件

●第一九七 社寺ニシテ社殿堂宇等法要ニ必要ノ部分公賣處分ヲ受ケ

七百六十一

タルトキ再建期限等ニ關スル件

第六章 教院教會所等ニ於テ葬儀執行衆庶參拜禁止及神道教導職ニ於テ葬儀執行ノ爲メ祠宇建設等ノ件

等ノ件

●第一九八 教院教會所說教所ニ於テ葬儀執行並衆庶參拜禁止ノ件

全

●第一九九 神道教導職ニ於テ教徒ノ葬儀執行ノ爲メ祠宇建設差許ノ件

全

上卷細目録終

明治二十七年八月廿五日印刷

同 年八月廿八日發行

(價金五十錢)

東京市麴町區麴町二丁目十七番地
著作兼發行人 市岡正一

東京市京橋區鎗屋町四番地
印刷人 古谷慶作

同
印刷所 榮昇舍

東京市麴町二丁目十七番地

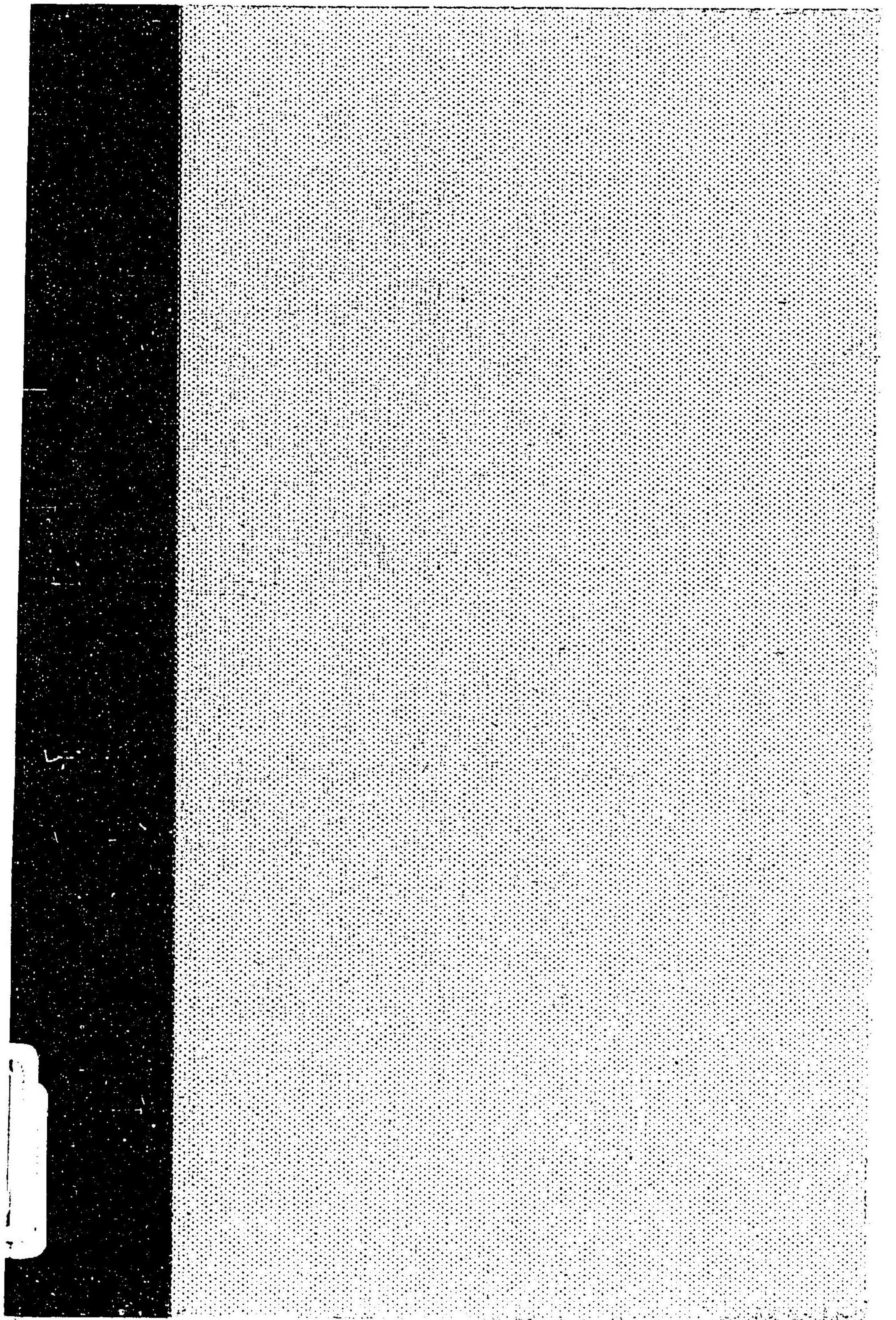
發行所 博行館本部

24-68

●大全中正誤

上卷三十七丁二行ノ末●地方官中郡長特別俸給ヲ受クル郡名ノ件二十七年五月十四日内務省告示第六十三號岡山縣ニ都宇部、窪屋部ヲ訓ヘ山口縣ニ佐波郡ヲ加フ●全五百六十四丁八行九行第二十一條特別賞與ヲ行フトキハ其郡度狀ヲ具メ報告スヘシ(二十二年一月訓令第二十二號ヲ以テ改正ス)ト改ム

岡山縣ニ都宇部、窪屋部ヲ訓ヘ山口縣ニ佐波郡ヲ加フ



類聚法令大全増補訂正彙集上

国立国会図書館

禁電子式複写

031148-001-6

CZ-5-088

類聚法令大全 増補訂正彙集

市岡 正一 / 編

上

M27

BBC-1220

